

令和 7 年度 教育指導の重点及び学校経営計画					
		学校番号	37	学校名	加茂農林高等学校
社会的役割等 (スクール・ミッション)	地域と連携・協働した学びを推進する農業高校として 科学的な思考力、判断力、表現力を養う探究的な学びを通して 地域や産業の発展に貢献し、持続可能な社会を実現する人材の育成を目指す学校				
学校教育目標 (教育方針)	校訓「至誠勤労・質実剛健」の下、「いのちを育み そして いのちから学ぶ」をスローガンに、夢の実現を目指す生徒一人ひとりの良いところを見つけ、励まし支える教育を推進し、広い視野と高い志をもって地域社会に貢献できる人材を育成する。				
3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を 育てたいか 【G P】	・ 思いやりと協働の精神を培い、自らの役割と責任を果たせる生徒 ・ 確かな学力とコミュニケーション能力を身に付け、自ら学び、自ら考え行動し、主体的かつ協働的に課題を解決していける生徒 ・ 産業人として必要な豊かな人間性を育み、地域社会や産業界に貢献できる生徒			
	生徒をどう 育てるか 【C P】	・ 実践的・体験的な学習活動を通して学び、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人としての資質・能力を育成 ・ 主体的・対話的で深い学びを実践するプロジェクト学習により、科学的な思考力・判断力・表現力を養い、課題解決能力と実践力を育成 ・ 生徒一人ひとりの個性や長所を十分に伸ばす、個に応じた細かな指導の実施			
	どんな生徒を 待っているか 【A P】	・ 植物や動物を育てること、食や環境など本校の学習内容に興味・関心がある生徒 ・ 実験・実習などの実践的・体験的な学習に、意欲的に取り組める生徒 ・ 将来、食料供給・環境創造などの各分野について大学等で学習を深めたり、農業や関連産業で地域貢献しようとする生徒			
学校の抱える課題	・ 第4次岐阜県教育振興基本計画を進めるにあたり、本校の存在意義や期待されている社会的役割、目指すべき学校像を学校内外に対して分かりやすく示すことが求められている。 ・ 地域で活躍する産業人の育成の目標のもと、「ふるさと教育」の充実、地域との連携が求められている。 ・ 教員の働き方「時間外勤務時間月45時間、年360時間」が注目されているなか、多忙化の解消に向けて業務の精選が求められている。				
教育指導の重点	領域・分野	今 年 度 の 具 体 的 な 重 点 目 標			
	学校経営	・ 「加茂農林で学べてよかった」と思わせる教科・生徒・進路の各指導を展開。 ・ 学習環境や職場環境の改善を図り、よりよいコミュニケーションを育むことができる学校を目指す。			
	学習指導	・ 公開・研究授業やI C Tの活用や、授業規律の向上により「わかる授業」の実施。 ・ 学習評価の方法を変更したことにより生徒に適切な学習指導を行う。 ・ H Pや「すぐる」などを利用し積極的な広報活動の実施。			
	生徒指導	広い視野と高い志をもって地域社会に貢献できる人材を育てるため、「豊かな人間関係を築き、地域社会人として考えて行動し、自らの夢に挑戦できる生徒」の育成を目指し、継続的な生徒指導を図る。 ・ 命を守り、生活を守る（交通安全の徹底（ヘルメットの着用推進）、生活安全の徹底（スマホ・ネット社会との関わり方、情報モラル） ・ 生徒の自立を促す生徒指導（社会的自立（元気な挨拶、時間を守る、身なりを整える）、精神的自立（善悪の判断、思いやりの心、高い人権意識）			
	進路指導	「社会的・職業的な自立に必要な能力や態度」を育てるために、キャリア教育を踏まえた進路指導の充実を図る。 ①主体的で意欲ある進路活動に結びつかせるため、自己理解と職業の理解を深めさせ、将来地域で自分の力が発揮できる進路を考えさせる。 ②配置されたタブレットを利用した進路指導を工夫する。			
	その他	・ 実習の安全、実習環境の改善 ・ 地域産業の担い手育成総合戦略事業の推進 ・ 難関大学への進学率を徐々に上げていく			

年 度 目 標				年 度 末 評 価（自 己 評 価）			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	県教育振興 基本計画での 位置付け	達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合 評価 A. B. C. D
学校経営	①スクールミッションの広報と実現にむけ、各方面と協力し、具体的な活動方法を計画する。	施策Ⅳ-20	学校運営協議会での指導・意見集約				
	②担い手の育成を目標とした地域連携の推進。	施策Ⅰ-4	今年度新たな地域連携事業を実施できたか。				
	③時間外勤務の軽減と業務の精選。	施策Ⅳ-27	時間外勤務時間とストレスチェックの結果				
学習指導	①公開・研究授業を通じ生徒の能力に応じた指導の職員研修を行う。	施策Ⅳ-23	昨年度の教職員の参加数との比較				
	②ICTを活用し生徒の理解を深める授業を展開する。	施策Ⅱ-9	ICT環境を活用できたか （学校評価アンケート）				
	③5段階法に変更した評価方法で生徒に評価の内容を適正に伝える。	施策Ⅳ-23	いろいろな面から学習の評価を行えたか （学校評価アンケート）				
	④HPの更新と「すぐーる」を使用した諸行事の連絡を行う。	施策Ⅰ-7	保護者の学校理解は高められたか。 （学校評価アンケート）				
生徒指導	①いじめ・人権に反する行動を見逃さない。規範意識の向上と問題行動の未然防止に取り組む。	施策Ⅰ-3	いじめ認定0件 問題行動事案5件以下				
	②交通ルール遵守の徹底、自転車等の安全運転を身につけさせる。	施策Ⅲ-19	ヘルメット着用率 15%				
	③スマートフォンやネット社会（SNS等）との適切な関わり方や、情報モラルを身につけさせる。	施策Ⅲ-19	情報モラル違反事案 0件				
	④教育相談の充実を図り、生徒個人や集団としてのより良い学校生活が実現できるようにする。	施策Ⅳ-23	教育相談室、サポート ルームの有効活用				
進路指導	①日頃からの挨拶や言葉遣い、他者と交流を意識させ、人間関係の構築の重要性を意識させる。	施策Ⅰ-1	挨拶や言葉遣いが、しっかりできているか。				
	②1年：自己と地域産業の理解を深めさせ、自分に合った進路目標を描かせる機会を設定する。	施策Ⅱ-13	自己理解ができ、自分に合った進路目標ができたか。地域産業を知ることができたか。				
	③2年：働く意義や職業、地域産業についての理解を深めさせ、具体的な進路目標を持たせる。	施策Ⅱ-13	働く意義や職業、地域産業について理解させ自分の適性を考えて進路目標を持たせることができたか。				
	④3年：個々に応じた進路指導を充実させ、地域で希望する進路の実現ができるようにする。	施策Ⅱ-13	自分にあった進路選択ができ、地元定着率がどうだったか。				
その他	①事故防止に向けて定期的な注意喚起、安全マニュアルの見直し	施策Ⅳ-21	事故等の有無				
	②担い手育成総合戦略事業の計画に即した内容の実施	施策Ⅰ-4	外部委員の評価				
	③四年生大学進学に向けた計画的な進路指導、資格取得	施策Ⅱ-14	進学率				

来年度に向けての改善方策等	実施日：令和8年 月 日	学校関係者評価	実施日：令和8年 月 日